

平成30年度教育事業「ジュニアチャレンジ淡路島一周」実施報告

1 趣 旨 小学校5・6年生を対象に、初めて出会った仲間と約1週間かけて、公共施設や民宿等で寝食を共にしながらの淡路島一周踏破という大きな挑戦を通して、仲間と協力することを学ぶとともに、人間としてのたくましさを育む。

2 期 日 平成30年8月19日（日）～26日（日） 7泊8日

3 募集定員 16名

4 参加者 19名

5 参加者内訳 小学5年生10名、6年生9名（男子14名、女子5名）
 ※南あわじ市1名、洲本市9名、神戸市3名、大阪府3名、京都府1名、香川県1名、北海道1名

6 実施プログラム



日時		活動内容	宿泊場所	移動距離
8月19日（日） 天気：晴れ 最高気温： 30.0℃	9：00～ 9：40	受付（交流の家）、アンケート実施	南あわじ市 伊加利公民館	19km
	9：40～10：15	開会式（スタッフ紹介、決意表明発表、出発式）		
	10：30～	出発		
	17：40～18：00	到着		
	18：45～20：30	入浴（ゆとりっく）・夕食		
	20：30～21：30 22：00	ふりかえり 就寝		
8月20日（月） 天気：晴れ 最高気温： 33.0℃	4：00～ 5：00	起床・準備	洲本市立 都志小学校	24km
	5：00～	出発		
	16：05～17：45	到着		
	18：00～20：15	入浴（ゆーゆーファイブ）・夕食		
	20：15～21：05	ふりかえり		
	21：20	就寝		
8月21日（火） 天気：晴れ 最高気温： 35.0℃	4：00～ 5：00	起床・準備	北淡自然休養村 センター	1班 26.7km 2班 25.4km 3班 24.1km
	5：00～	出発		
	18：00	ゴール到着ならずタイムアップ。（1班残り2.3km、 2班残り3.6km、3班残り4.9km）		
	18：30～20：15	入浴・夕食		
	20：15～21：00	ふりかえり		
	21：30	就寝		
8月22日（水） 天気：晴れ 最高気温： 35.5℃	4：40～ 5：20	起床・準備	津名高校 同窓会館	1班 21.5km 2班 28.2km 3班 22.9km
	5：20～	前日の到着地点から各班出発		
	18：00	ゴール到着ならずタイムアップ。（1班残り9.8km、 2班残り4.4km、3班残り11km）		
	18：30～20：00	入浴・夕食		
	20：00～20：45	ふりかえり		
	21：20	就寝		

8月23日(木)	4:00～ 5:00 5:00～ 天気:晴れ 最高気温: 34.6℃	起床・準備 各班、前日の到着地点から出発 <u>※台風の影響により24日のルートも先に進めるよ うルール変更</u> 各班台風接近のためピックアップ(1班残り13km、 2班残り9km、3班残り15km) 入浴(パルシェ香りの湯)・夕食 就寝	津名高校 同窓会館	1班 18.8km 2班 17.4km 3班 18km
8月24日(金)	7:00～ 8:00 8:20～10:30 天気:曇り 最高気温: 29.0℃	起床・朝食 全体ふりかえり 各班、前日の到着地点から出発 各班、ゴール地点に到着 入浴(エトワール生石)・夕食 全体ミーティング 就寝	洲本市立 由良公民館	1班 13km 2班 9km 3班 15km
8月25日(土)	4:00～ 5:00 5:00～ 天気:雨のち曇り 最高気温: 30.7℃	起床・準備 出発 <u>※由良→灘間が通行止めにより内陸ルートに変更</u> 到着 夕食・入浴 就寝	国立淡路青少年 交流の家	26km
8月26日(日)	6:30 6:55 天気:晴れ 最高気温: 31.2℃	起床・準備 朝のつどい 朝食・退所準備 全体まとめ 昼食・休憩 報告発表会・閉会式		

※最高気温は気象庁発表のデータを記載(8/19・8/25・8/26:兵庫県「南淡」、8/21・8/22:兵庫県「郡家」、8/20・8/23～8/24:兵庫県「洲本」)

7 プログラム内容

参加者の成長段階に応じた支援ができるよう、7泊8日のプログラムを下記のように大きく5つのステージに分けて運営した。

【第1ステージ:技術習得と目標設定・仲間作り】

8月19日(日):国立淡路青少年交流の家→南あわじ市阿那賀地区(19km)

8月20日(月):南あわじ市阿那賀地区→洲本市都志地区(24km)

「ジュニアチャレンジ淡路島一周」に対する決意表明を行い、チャレンジがスタートした。序盤ということもあり、お互いに気を遣いすぎ、どこかちぐはぐしていた。そのちぐはぐさは歩くペースにも表れ、19日、20日ともに制限時間ぎりぎりのゴールに繋がった。

日々のふりかえりでは決意表明で発表した目標や、毎日の目標を達成できたかを考えた。1日をふりかえると、「周りのことをもっと良くみないといけない。」「休憩以外の余計な時間が多かったのでは?」という意見が子どもたちから次々と出始めた。ふりかえりを通して、少しずつ班が一つになっていく様子が見受けられた。



【第2ステージ:信頼関係の構築とチーム作り】

8月21日(火):洲本市都志地区→淡路市野島地区(24~27km)

8月22日(水):淡路市野島地区→淡路市佐野地区・生穂地区(21~29km)

8月23日(木):淡路市佐野地区・生穂地区→洲本市安乎地区・洲本市街地(17~19km)

第2ステージからはボランティアスタッフの介入を減らし、子どもたち自身で地図の確認やペース配分を考えるよう促した。第1ステージの反省から、休憩の仕方やペースに工夫が見える一方、なかなかお互いの意見を譲ることができず、話合いに時間がかかってしまう場面もあった。さらに暑さの影響もあり、21日、22日ともすべての班がゴールにたどり着くことができなかった。

ふりかえりでは、2日ともゴールにたどり着けなかったこともあり、なかなか真剣に取り組めていなかった子どもたちもスイッチが入り、話合いに参加するようになった。どうすれば時間内にゴールできるか?ペースを落とさない工夫は?それぞれ班ごとに出た課題について子どもたちで話し合った。

また、23日は予定では休息日であったが、23日夜から24日朝にかけて台風20号が淡路島に接近することもあり、休息日を返上し、22日に各班が残した距離と24日のルート在先をもって歩くこととなった。台風の影響もあり、23日14:00にはチャレンジ終了としたが、ふりかえりで話した課題を班で共有しながら歩いたことで、どの班も良いペースを保ちながら進むことができた。夜に予定していたふりかえりは行わず、しっかり睡眠をとる時間を設け、翌日のチャレンジに備えた。

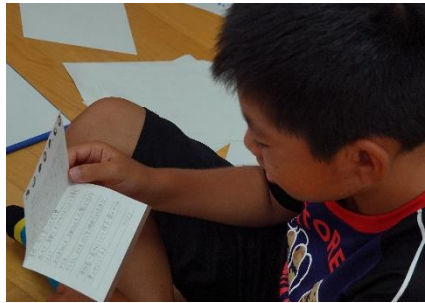


【第3ステージ:前半のふりかえりと目標の再設定】

8月24日(金):全体ふりかえり ※8:00～10:30

24日の午前中は警報発令中だったこともあり、全体ふりかえりの時間に変更した。前半は、「これまでのチャレンジで自分自身が得たもの」「まだまだ頑張れること」「これからチームに与えられること」を個人でふりかえり、班で共有した。さらに班のメンバーの意見も踏まえ、「どんなゴールにしたいか」を考えた。

後半は、保護者から預かった手紙を参加者に読んでもらい、自分自身の想い、班の想い、保護者の想いを胸に、ラストチャレンジに向けて改めて決意表明を行った。



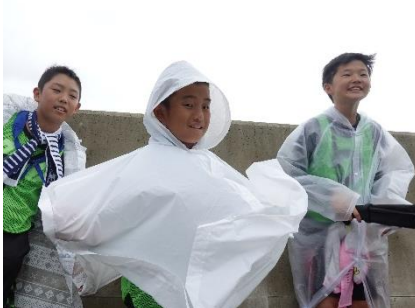
【第4ステージ:ラストチャレンジ】

8月24日(金):洲本市安平地区・洲本市街地→洲本市由良地区(9～15km) ※12:30～18:00

8月25日(土):洲本市街地→国立淡路青少年交流の家(26km)

ふりかえりで話し合ったように、お互いに気を配りながら進んでいる様子が見受けられ、どの班も自分たちのペースをつかむことができた。24日は久々に全ての班が時間内に到着し、夜のふりかえりでも明日絶対にゴールするぞという意気込みを感じることができた。

25日は、台風の影響で由良から灘までのルートが通行止めになったため、外周のルートから内陸のルートに変更した。距離は減ったものの、田んぼや国道沿いで日差しの強いルートとなり、苦戦することが考えられたが、ペース配分や休憩、給水等のタイミングをしっかりと子どもたちで考え、全ての班が無事に到達することができた。



【第5ステージ:全体のまとめとこれからの目標設定】

8月26日(日):全体のまとめ、宣言文の作成と発表、閉会式

「チャレンジしたことや、がんばったこと」、「自分のことについて、気づいたこと」、「グループのことについて、気づいたこと」、「淡路島一周して感じたこと、学んだこと」、「これから家や学校に戻ってがんばっていきたいこと」についてまとめ、宣言文を作成し、保護者の前で発表した。それぞれが淡路島一周を通して、学んだこと、気づいたことを発表した。



8 参加者の声

- ・みんなと仲良くなりたいという気持ちが最後の日になるにつれて高まっていった。
- ・ゴールに目が行きすぎて周りを見えていなかったことに気づいた。
- ・1 kmは短いと思っていたが、歩いてみたら長かった。車の便利さがわかった。
- ・仲間がいれば、どんなことだってできると学んだ。
- ・これからは淡路島一周で仲間と協力したことを活かして、いろいろなことを頑張りたい。
- ・何事も人任せにせず、自分でやってみたい。
- ・自分1人だけではゴールできなかった。仲間の大切さに気づいた。
- ・淡路島に住んでいるのに、知らない所が多く、とてもきれいな風景があることを知った。
- ・みんなと笑顔でゴールできたことが一番うれしかった。
- ・歩いているうちに淡路島の自然や人の良さがわかり、歩いてよかった。
- ・何事もあきらめないこと、挑戦すること、人に対する感謝の気持ちを忘れずに頑張りたい。
- ・学校で学べないとても大事なものを学ぶことができた。

9 I K R 結 果

(教育効果の検証) 分析方法：対応のある t 検定 (分析結果の詳細は詳細出力を参照)

「生きる力」の変容 (得点範囲：28～168点)

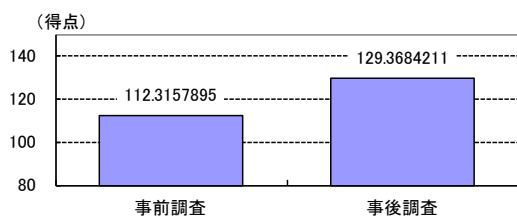


図1. 「生きる力」の平均値の推移

(事前－事後)

- ・事前から事後にかけて 17.1ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

「心理的社会的能力」の変容 (得点範囲：14～84点)

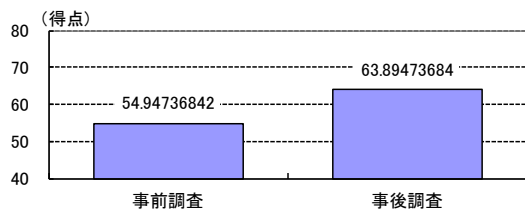


図2. 「心理的社会的能力」の平均値の推移

(事前－事後)

- ・事前から事後にかけて 9.0ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

「徳育的能力」の変容 (得点範囲：8～48点)

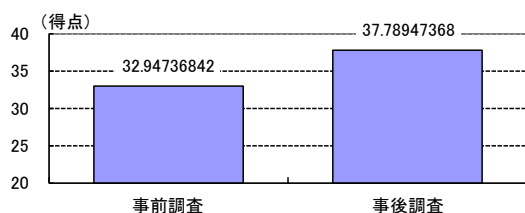


図3. 「徳育的能力」の平均値の推移

(事前－事後)

- ・事前から事後にかけて 4.9ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

「身体的能力」の変容 (得点範囲：6～36点)

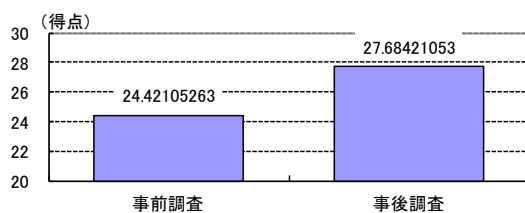


図4. 「身体的能力」の平均値の推移

(事前－事後)

- ・事前から事後にかけて 3.3ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

10 成 果

- ・子どもたちの日々の様子や最後の宣言文からも当事業の「仲間と協力することを学ぶとともに、人間としてのたくましさを育む」という目的は概ね達成できた。また、それを裏付けるように IKR 調査では、「生きる力」「心理的社会的能力」「徳育的能力」「身体的能力」の項目に有意な向上が見られた。
- ・猛暑、そして台風に伴う強風等、例年になく厳しい条件であり、最大 11 km のビハインドがあったにもかかわらず、参加者全員が無事にゴールすることができ、子どもたちが持っている可能性や底力を感じることができる事業となった。
- ・どの班も時間内にゴールできなかった日が続いたことがきっかけとなり、チャレンジやふりかえりで子どもたちの気持ちが一つになっていく様子が伺えた。成功体験だけではなく、失敗体験により学ぶこと、気づくことは多いと改めて実感させられた。
- ・新聞や TV で放送されていることや 7 年目を迎え認知度も高くなってきたこともあり、多くの地域の方に声をかけていただいた。休憩スペースやトイレも快く貸していただき、淡路島全体で応援してくれるような雰囲気の中で歩くことができた。
- ・昨年に続き、過去の参加者が高校生ボランティアリーダーとして事業に参画した。歩いている参加者の気持ちがわかることもあり、子どもたちに寄り添いながら上手くサポートしてもらうことができた。また、参加した子どもたちからも「今後リーダーで参加したい」という声もあり、参加者からボランティアに繋がる良いきっかけになると感じた。

